

社会との連携 新たな繁栄を目指して

国立高等専門学校協会会長
宮城工業高等専門学校長 四ツ柳隆夫

[概要キーワード群]

- 1) 高専 40 年の伝統を踏まえ、新法に準拠する新しい高専を創造する。
- 2) 目指すべき変化の方向
 - ・ 法人制度の設計と「自律性をもった教員個人の変化」が鍵を握る。
 - ・ 学生、教職員、そして社会にとって魅力的な高専を創る。
 - ・ 目標は、高専の個性化、活性化、高度化
 - ・ 仲間の増殖 両技科大など大学・研究機関との関係を強化
国際水準の「学士課程」を基盤とする技術者教育の確立
- 3) 地域共同テクノセンターの機能の拡充
 - ・ 研究機能：高専機構法第 12 条「業務の範囲」による裏づけ
 - ・ 教育機能：長期企業研修による教育方法の確立
「社会と共に次世代の創造的技術者を育てる」という
コンセンサスの醸成が不可欠（企業等と共同して教育する）
 - ・ 地域交流・文化の核の一つとして：「生き甲斐の創造」の視点
- 4) 高専間連携がもたらす「複合効果」と「ゆとり」
 - ・ 資源の少ない教育機関の相互補完戦略：競争と連帯
人（学生、教職員）、予算、時間、の配分の最適化と役割分担
 - ・ 人材・特技データベースの充実と連携システムの構築
「アイデア」が決め手となる技術：「知的モノづくり産業」へ
キー・テクノロジーとは、最も遅れた要素技術である。
- 5) 繁栄に向けて
 - ・ 全国一法人となった 55 校の一条校体制の持つ力と機能の利用
1 校では 2 - 3 件程度が、全体では 110 165 件の特許生産力
国立高専機構の知的財産本部と地域 TLO の活用方法の開発
高専機構、学校、個人研究者への還元と活用
 - ・ 築き上げてきた高専のローカルブロック体勢のもつ力の活用
 - ・ 県単位の良さの活用と、その伝統的発想の「くびき」からの脱却
地元資源の活用という誘惑 スイスの戦略
人口減少社会における雇用の創出という要請の不思議
 - ・ 発展のための基盤の構築：資源全体の中でのセンター機能の最適化
「テクノセンターへの投資」のコンセンサス
 - ・ 独立法人第 2 期 5 ヶ年計画への飛躍が高専の将来を決める。
<工学と技術の使命：「生き甲斐の創造」を目指して>